

米国農務省穀物等需給報告(2018年12月11日発表のポイント)

平成30年12月12日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、12月11日(現地時間)、2018/19年度の8回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2018/19年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み－

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 25億9,817万トン(対前年度比 0.7%減)
- ② 消費量: 26億4,250万トン(対前年度比 1.7%増)
- ③ 期末在庫量: 7億6,658万トン(対前年度比 5.5%減)
期末在庫率: 29.0%(対前年度差 2.2ポイント減)

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、カナダで上方修正も豪州における乾燥被害による下方修正から、前月より下方修正され、前年度より減少する見込み。世界の消費量は、インド等の増加により、前年度より増加する見込み。世界全体の消費量は、生産量を上回り、期末在庫量は、前年度より減少する見込み。

- ① 生産量: 7億3,341万トン(対前年度比 3.9%減)・・・米国等で増加、ロシア、EU、豪州等で減少
- ② 消費量: 7億4,525万トン(対前年度比 0.1%増)・・・インド、中国等で増加、EU、ロシア等で減少
- ③ 期末在庫量: 2億6,810万トン(対前年度比 4.2%減)・・・中国等で増加、ロシア、米国、EU、豪州等で減少
期末在庫率: 36.0%(対前年度差 1.6ポイント減)

とうもろこし : 世界の生産量は、ウクライナで生産量が史上最高となること等から、前年度より増加する見込み。世界全体の消費量は、米国でバイオエタノール向け需要が下方修正されたものの、中国、EU等での増加により生産量を上回り、期末在庫量は減少の見込み。

- ① 生産量: 10億9,991万トン(対前年度比 2.2%増)・・・ブラジル、アルゼンチン、ウクライナ等で増加、中国で減少
- ② 消費量: 11億3,131万トン(対前年度比 4.2%増)・・・中国、EU、米国、ブラジル等で増加
- ③ 期末在庫量: 3億880万トン(対前年度比 9.2%減)・・・アルゼンチンで増加、中国、米国、EU、メキシコ等で減少
期末在庫率: 27.3%(対前年度差 4.0ポイント減)

米(精米) : 世界の生産量は、前月より上方修正されたものの、前年度より減少する見通し。なお、生産量が消費量を上回ることから、期末在庫量は前年度より増加する見込み。

- ① 生産量: 4億9,114万トン(対前年度比 0.8%減)・・・中国等で減少
- ② 消費量: 4億8,956万トン(対前年度比 1.4%増)
- ③ 期末在庫量: 1億6,325万トン(対前年度比 1.0%増)・・・中国等で増加
期末在庫率: 33.3%(対前年度差 0.1ポイント増)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、米国に加え、ブラジル中西部で天候に恵まれ単収が増加すること等から、前年度より増加する見込み。世界の生産量は、消費量を上回り、期末在庫量は、前年度より増加する見込み。

- ① 生産量: 3億6,920万トン(対前年度比 8.8%増)・・・アルゼンチン、米国等で増加
- ② 消費量: 3億5,153万トン(対前年度比 4.6%増)・・・アルゼンチン、中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億1,533万トン(対前年度比 13.8%増)・・・米国、アルゼンチン等で増加、ブラジル、中国等で減少
期末在庫率: 32.8%(対前年度差 2.7ポイント増)

担当: 大臣官房政策課食料安全保障室 西内、池田 (内線3805)

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2018年12月11日発表)

2018.12

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,661.04	2,615.43	2,598.17	▲ 0.7%	0.7	2,295.0
消費量		2,602.35	2,599.43	2,642.50	1.7%	▲ 0.6	2,285.1
期末在庫量		794.92	810.92	766.58	▲ 5.5%	2.7	477.9
期末在庫率		30.5%	31.2%	29.0%	▲ 2.2	0.1	20.9%
小麦							
生産量		756.51	763.06	733.41	▲ 3.9%	▲ 0.1	660.4
消費量		739.86	744.16	745.25	0.1%	▲ 0.6	680.8
期末在庫量		261.04	279.94	268.10	▲ 4.2%	1.4	179.0
期末在庫率		35.3%	37.6%	36.0%	▲ 1.6	0.2	26.3%
粗粒穀物							
生産量		1,413.71	1,357.30	1,373.61	1.2%	0.3	1,158.9
消費量		1,378.73	1,372.45	1,407.69	2.6%	▲ 1.2	1,139.5
期末在庫量		384.45	369.31	335.23	▲ 9.2%	1.1	175.9
期末在庫率		27.9%	26.9%	23.8%	▲ 3.1	0.1	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,122.41	1,076.18	1,099.91	2.2%	1.0	898.0
消費量		1,083.55	1,086.23	1,131.31	4.2%	▲ 1.1	876.7
期末在庫量		350.24	340.20	308.80	▲ 9.2%	1.3	144.6
期末在庫率		32.3%	31.3%	27.3%	▲ 4.0	0.1	16.5%
米(精米)							
生産量		490.82	495.07	491.14	▲ 0.8%	0.4	475.7
消費量		483.77	482.82	489.56	1.4%	1.2	464.7
期末在庫量		149.43	161.68	163.25	1.0%	0.2	123.0
期末在庫率		30.9%	33.5%	33.3%	▲ 0.1	▲ 0.0	26.5%

【大豆】

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			(参考) 2012/13
				(予想)	前年度比	前月差	
生産量		349.30	339.47	369.20	8.8%	1.7	269.1
消費量		329.68	336.08	351.53	4.6%	▲ 0.4	263.7
期末在庫量		97.53	101.30	115.33	13.8%	3.3	56.4
期末在庫率		29.6%	30.1%	32.8%	2.7	1.0	21.4%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(December 11, 2018)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとおり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2018年12月11日発表)

2018.12

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
全体							
生産量		472.56	437.26	443.33	1.4%	0.0	353.0
消費量		363.62	357.75	368.30	2.9%	▲ 1.3	317.1
輸出量		96.71	94.58	95.28	0.7%	▲ 0.6	51.6
期末在庫量		95.76	88.76	76.48	▲ 13.8%	1.6	44.2
期末在庫率		20.8%	19.6%	16.5%	▲ 3.1	0.4	12.0%
小麦							
生産量		62.83	47.35	51.29	8.3%	0.0	61.3
消費量		31.86	29.33	31.27	6.6%	0.0	37.8
輸出量		28.60	24.52	27.22	11.0%	▲ 0.7	27.5
期末在庫量		32.13	29.91	26.52	▲ 11.3%	0.7	19.5
期末在庫率		53.1%	55.5%	45.3%	▲ 10.2	1.7	29.9%
粗粒穀物							
生産量		402.61	384.26	385.12	0.2%	0.0	285.3
消費量		327.53	324.14	332.81	2.7%	▲ 1.3	275.5
輸出量		64.46	67.30	64.92	▲ 3.5%	0.0	20.7
期末在庫量		62.17	57.92	48.56	▲ 16.2%	1.0	23.5
期末在庫率		15.9%	14.8%	12.2%	▲ 2.6	0.3	7.9%
とうもろこし							
生産量		384.78	370.96	371.52	0.2%	0.0	273.2
消費量		313.83	313.83	319.55	1.8%	▲ 1.3	263.0
輸出量		58.27	61.94	62.23	0.5%	0.0	18.5
期末在庫量		58.25	54.37	45.25	▲ 16.8%	1.2	20.9
期末在庫率		15.7%	14.5%	11.9%	▲ 2.6	0.3	7.4%
米(精米)							
生産量		7.12	5.66	6.93	22.4%	0.0	6.3
消費量		4.23	4.28	4.22	▲ 1.4%	0.0	3.8
輸出量		3.65	2.76	3.14	13.8%	0.1	3.4
期末在庫量		1.46	0.93	1.40	50.5%	▲ 0.1	1.2
期末在庫率		18.5%	13.2%	19.0%	5.8	▲ 1.3	16.1%

【大豆】

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比		前月差
生産量		116.92	120.04	125.18	4.3%	0.0	82.8
消費量		55.71	58.97	60.08	1.9%	0.0	48.6
輸出量		58.96	57.95	51.71	▲ 10.8%	0.0	36.1
期末在庫量		8.21	11.92	26.00	118.1%	0.0	3.8
期末在庫率		7.2%	10.2%	23.3%	13.1	0.0	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(December 11, 2018)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、米(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

世界の穀物の価格動向（2018年）

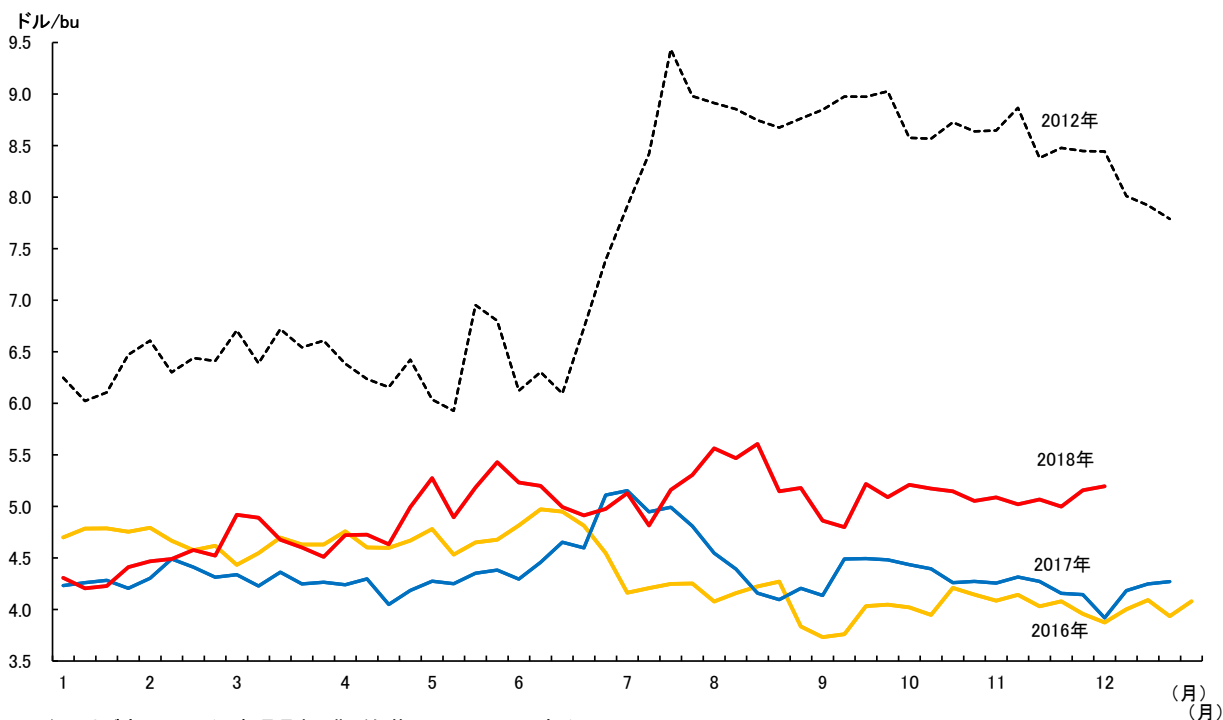
- 小麦：5.20ドル/bu（前年同時期の価格：4.15ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における12月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2018年1月以降、世界的に潤沢な供給も、米国大平原南部での乾燥による冬小麦の作柄悪化懸念から上昇。3月以降一時値を下げたものの、4月以降は、低温による米国産冬小麦の作柄懸念や春小麦の作付遅延から5ドル/bu台半ばまで値を上げた。

5月下旬以降、春小麦の生育懸念の緩和及び作柄の改善期待、市場予想を上回る米国の作付面積報告や冬小麦の収穫進展から価格は低下し、7月上旬に4ドル/bu台後半まで値を下げたものの、7月中旬以降、ロシア、EU等の乾燥による生産減懸念や米国農務省予測を下回る業界団体による米国産春小麦の単収調査結果から上昇し、8月上旬に5ドル/bu台後半に値を上げた。

8月中旬以降は、ロシアの生産見通しの上方修正等から9月中旬に一時4ドル/bu台後半に値を下げたものの、9月下旬には、豪州の干ばつによる生産見通しの下方修正から5ドル/bu台前半に値を戻した。

10月以降、大豆、とうもろこしの価格上昇が支援材料となったことや、12月の豪州の生産見通しの下方修正等があったものの、世界的に供給が潤沢で、米国産小麦の輸出需要が低調であることから、5ドル/bu台前半で推移。



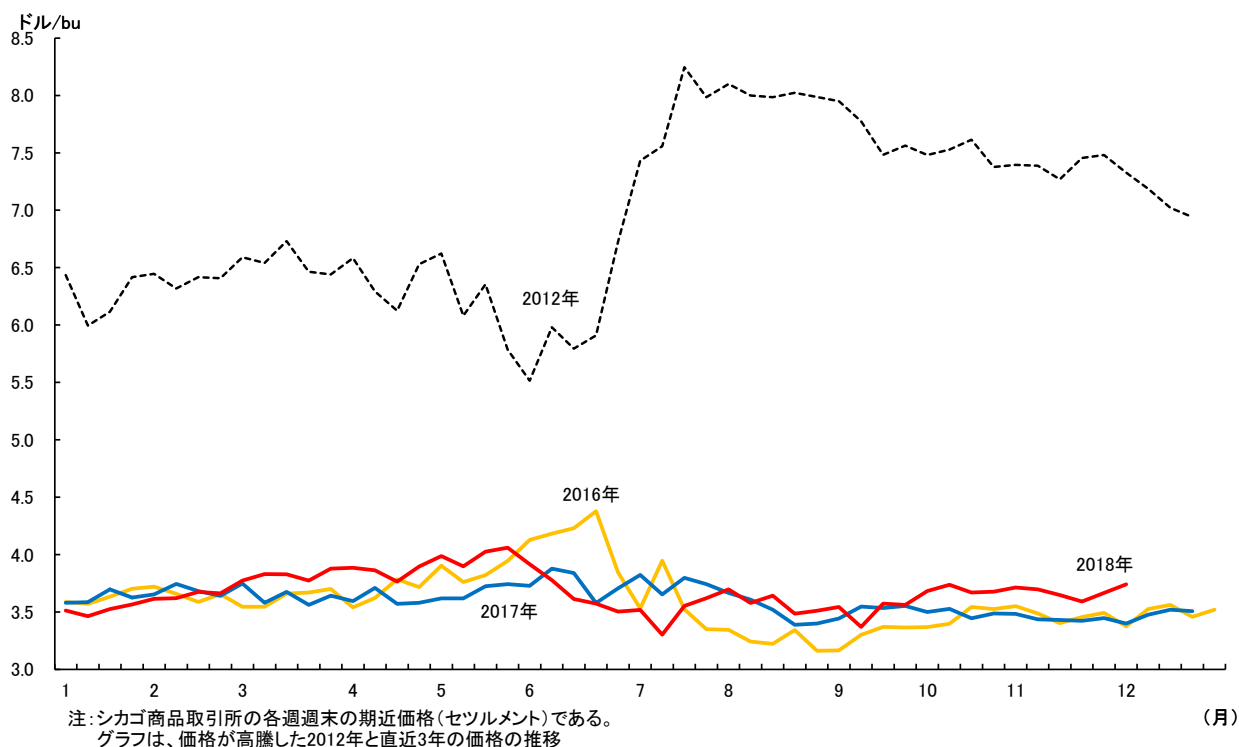
注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

- とうもろこし：3.74 ドル/bu （前年同時期の価格：3.44 ドル/bu）
（価格は、シカゴ商品取引所における12月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2018年1月以降、世界的に潤沢な供給も、アルゼンチンで乾燥による作柄悪化懸念、米国作付意向面積の市場予想を上回る減少や米国中西部の作付け遅れ、ブラジルの作柄悪化見通しから上昇し、5月下旬には4ドル/bu 台に値を上げたものの、6月以降、米国で生育環境が改善され作柄評価が良好となり7月中旬には3ドル/bu 台前半に値を下げた。

8月上旬には、米国の堅調な輸出から3ドル/bu 後半まで値を上げたものの、米国産の順調な生育、史上2番目の生産見通しから、9月中旬に3ドル/bu 台前半に値を下げた。

その後は、米国の好調な輸出や米国産の降雨による収穫遅延懸念、10月及び11月の米国農務省需給報告で2ヶ月連続で米国産の単収が下方修正されたことから値を上げ、3ドル/bu 台後半で推移。

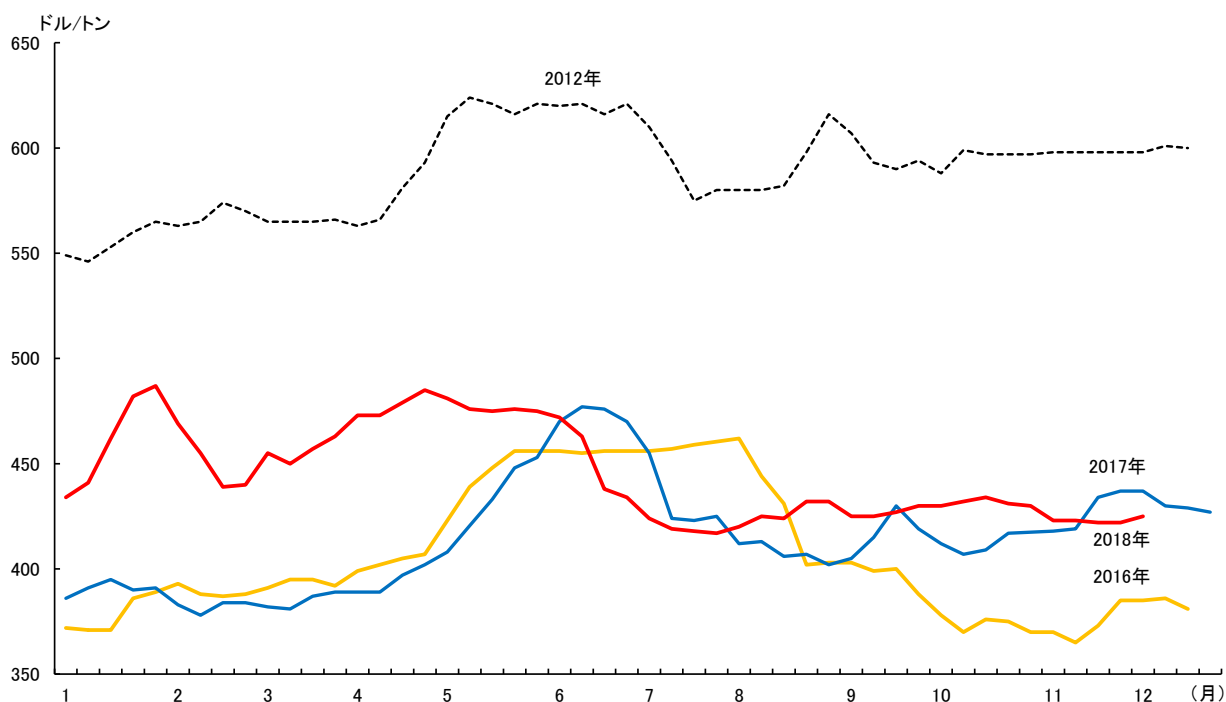


- 米：425 ドル/トン（前年同時期の価格：437 ドル/トン）
（価格は、タイ国家貿易取引委員会における12月第1水曜日のFOB価格。）

2018年1月以降、バーツ高やインドネシア、フィリピン等からの需要により480ドル/トン台まで値を上げたものの、アジアからの輸入需要の落ち着きやタイ雨季作の新穀出回り期待から440ドル/トン台に値を下げた。

2月中旬以降、再びインドネシア、フィリピン等からの需要増から上昇し、4月末には再び480ドル/トン台まで値を上げたものの、6月以降、需要の緩和、バーツ安、タイ政府の在庫米の放出による供給増等から410ドル/トン台まで値を下げた。

8月以後、中国、台風の被害を受けたフィリピン等からの需要増やタイバーツ高で、430ドル/トン台で推移したものの、10月下旬にはタイバーツ安となり、420ドル/トン台半ばで推移。11月以降、タイの新穀が徐々に市場に出回り始めたこと等から、420ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

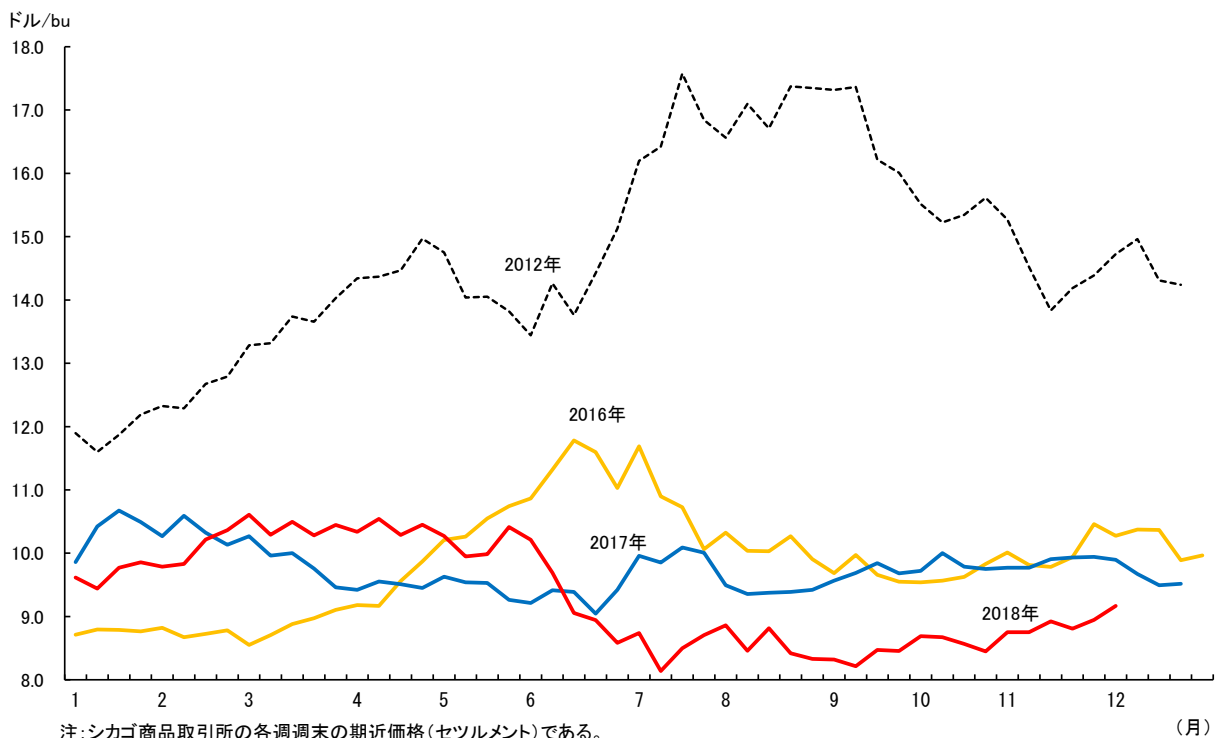
● 大豆：8.75ドル/bu（前年同時期の価格：9.77ドル/bu）
 （価格は、シカゴ商品取引所における12月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2018年1月以降、アルゼンチンの乾燥による作柄悪化懸念から上昇したものの、3月以降はブラジルの収穫の伸展、米中の通商摩擦の懸念、例年並みの米国の播種進捗から10ドル/bu前後で推移した。

5月下旬には、米中間で米国産農産物の輸入拡大合意やブラジルのトラック運転手のストライキから10ドル/bu台半ばまで値を上げたものの、同月末には、ストの収束や米国の平年を上回る播種作業の進展から10ドル/bu台前半に値を下げた。

6月に入ると、米国301条発動を受けた中国の米国産大豆に対する対抗措置の発表、米国産の良好な生育状況から更に価格が低下し、7月上旬には8ドル/bu台前半に値を下げた。

8月上旬には米国の農家支援策の公表やEU向け等の堅調な輸出需要から9ドル/bu前後に値を上げたものの、9月中旬には、米中間の追加関税の発表から一時8ドル/bu台前半に値を下げた。その後は、引き続き堅調なEU向け等の輸出需要や、降雨による米国産の収穫遅延懸念、10月の米国農務省需給報告で市場予想を下回る米国産の生産量が示されたことから、一時8.9ドル/buまで値を上げたものの、天候回復による米国産の収穫進展から10月末には8ドル/bu台前半に値を下げた。その後、ブラジルでの順調な作付け・生育状況も、12月1日の米中首脳会談における中国の米国産農産物の輸入再開期待から値を上げ、8ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
 グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(月)

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	114.73	113.06
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
113.01	110.06	112.21	110.91	112.44	109.91	110.68	112.96	112.92	112.97	110.77
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
107.82	106.00	107.43	109.69	110.03	111.37	111.06	111.89	112.78	113.37	

出典: 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	36.20	36.00
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
38.00	37.25	35.80	35.25	37.00	37.80	39.75	42.40	42.00	44.25	45.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
44.25	45.50	44.25	43.40	43.60	45.25	47.25	48.50	50.00	50.40	

出典: 米国(ガルブ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値(2018年11月は、10月31日から11月4日までの週別の平均値)。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 1月	2月
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	52.61	53.46
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月
49.67	51.12	48.54	45.20	46.68	48.06	49.88	51.59	56.66	57.95	63.66
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
62.18	62.77	66.33	69.98	67.32	70.58	67.85	70.08	70.76	56.12	

出典: 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成30年11月, 122頁
但し、2018年11月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の週別価格の平均値。